

戦後70年の節目を迎えた「平和行動in広島・長崎」平和団を派遣!!

国会において、安全保障法制の論議が行われる中、戦後70年の節目を迎えた本年の連合平和行動in広島・長崎集会が開催され、連合群馬から団を編成し、派遣を行いました。

産別・地協・議員懇から広島派遣団へは、18名（親子派遣4組10名）が参加し、広島平和団とともに広島親子派遣団を統合し開催しました。

広島・長崎ともに、節目とあって例年をはるかに超える方々が、国内外から訪れていました。

原爆を経験した方々も歴史を刻む中で高齢化が進み、被爆体験者の生の声を聴けるのも数少なくなってきており、後世へ語り継ぎ恒久平和をめざす取り組みの重要性がますます高まっています。

広島派遣団では、多くの皆様からご協力をいただいた折鶴(28,000羽)の献納を行い、原爆体験者の語り部学習に親子も含め熱心に取り組みされました。

長崎派遣団は、折鶴(10,000羽)の献納や高校生1万人署名実行委員会の取り組みの一助となる「核兵器廃絶署名」や戦争孤児などへの学習支援の一環となる「高校生1万人署名実行委員会『えんぴつ』運動」として取り組み産別・地協から集約した4,165本のえんぴつを寄贈しました。

広島・長崎ともに平和公園内のモニュメントなどを巡るピースウォークや資料館の見学を通じ、恒久平和への想いを共有しました。

広島語り部
学習→



←広島 平和記念公園
折鶴献納

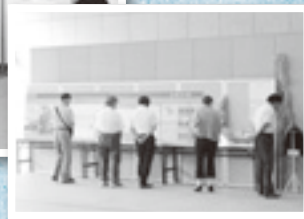


↑長崎 平和公園で折鶴献納
←核兵器廃絶署名・えんぴつ寄贈



↑ららん藤岡

↓県民ホール



連合群馬「平和パネル展」を開催

連合群馬では、原爆や沖縄戦の悲惨さを現地へ赴き、実際に体感することがなかなかできない、組合員をはじめ県民の方々に知っていただくため、「平和パネル展」を開催し、県民や後世に伝える活動を展開しています。

本年は、道の駅「ららん藤岡」と「県庁県民ホール」において開催し、2会場で639名を超える来場者を迎えることが出来ました。

今年は、県内の戦害を紹介するコーナーも設け、焼夷弾の残骸の実物やガラスが溶け込んだ破片など「あたる歴史資料館」の協力も得る中での開催となりました。

地協役員と労働基準監督署との意見交換会を開催

地域で働く仲間たちの「サポート体制の強化」に向けた取り組みとして、県内7カ所の労働基準監督署（前橋・高崎・桐生・太田・沼田・藤岡・中之条）との意見交換会を開催し、県連合と各地協の役員にくわえ、労働相談を受ける立場として組織アドバイザーも参加しました。

意見交換の場では、県内の各地域における地場の産業を踏まえた、雇用・労働環境や寄せられる労働相談についての共有と課題などについて話し合いました。

地域により特徴はあるものの、主な内容としては、「長時間・過重労働の問題」、「有給休暇取得や、パワハラに

関する相談」といったものでありました。

連合群馬は引き続き、労働法制改悪の動きに注視し労働者が安心して働き続けられる社会の実現に向けて取り組みを進めていきます。

